

就労支援ネットワークセミナー

「障がい者就労支援ネットワークセミナー」は、平成19年に当センターが開設して以来、可能な限り住み慣れた地域で「就労に関する相談」、「情報交流」、「必要な学びの場の提供」を趣旨として、暮らしやすい地域作りを目標に回を重ねてきました。ここ3年間はコロナ禍への対応もあり、行政福祉担当者に特化して、改めて地域課題の把握と今ある資源を活用した新しい仕組みを考えるためのセミナーを企画しました。

重層支援を絡めた対象者に対する ニーズ把握と受け皿について

障がい・高齢・引きこもり・法の狭間の人など、**重層支援を絡めた対象者に対するニーズ把握**と、企業の抱える人手不足など町内の様々な課題を組み合わせたへ対応が必要。**働きたい高齢者・障がい者の就労支援・困窮者の就労準備をキーワードに「就労サポートの本別町モデル」**を検討していきたいと考えてます。

幕別町の就労支援の取組みについて

- ① 就労支援を取り組んだきっかけ
- ② 時代と共に変わる職場体験事業
- ③ 時代と共に変わる
チャレンジ雇用事業
- ④ 狭間のニーズへの対応と
重層的支援体制整備事業
**幕別町の課題と取組みを
丁寧に説明いただきました**



幕別町福祉課
塚本さん



事務局説明
本別町 門田さん・竹村さん

塚本さんからの発表を受け、4つのテーマでグループワークを行いました

庁内連携について

現状と課題

- ・役場内の雇用に関して、各部局に労働担当としての視点が無い
- ・障がいのある方の受け入れ体制づくりが必要

庁内連携に必要なこと

- ・リーダーシップを誰がとるのか
- ・仕事の切り出し方 → 全部局が集まって連携する
- ・町内連携を研修項目にするなどの土台作り

相談支援について

誰がコーディネートしていくのか

- ・個人ではなく世帯を見るとき、誰がコーディネートするのか
- ・今は困っていないけど、ゆくゆくは・・・と想像できる方に誰が関わる？ → 障がいいっぱい？ 引きこもりっぽい？
- ・アウトリーチ、つながり続ける難しさがある
- ・今後の支援を想定はしておくが、ご本人との信頼関係を築くことから始めないといけない難しさがある

参加支援（日中活動）について

課題

- ・障がい者・困窮者などが街に溶け込める構造がない
- ・地域の人を巻き込むための重層支援の名前がついたことで、福祉だけにこだわらない支援体制をつくれる？

アプローチ方法

- ・垣根のない人が集える居場所作り
- ・生活困窮の方を受け入れて委託の仕事をしてもらう
- ・事業所外での活動（お祭り・イベント）
- ・誰でもちょっと働けるところ（企業との仕事のコラボ）
- ・町の人の協力 → 場所や人材などの情報提供
- ・手が足りないところ（企業）との仕事のコラボ

地域づくりに向けた支援について

ニーズの把握

- ・どこの課で受けても、会議の土台に挙げていく
- ・重層が始まったことでニーズは上がってきている
- ・なんでも重層の窓口になっていないか

コーディネート

- ・個々のマネジメントはそれぞれの担当者が行っているが、家庭全体のマネジメントは誰がするのか。家族全体を捉えること、状況を整理することの課題は大きい

受け皿となる場所

- ・福祉だけではなく色々な部局がつながり作る必要性
- ・家庭以外の次の居場所作り → せっかく出てきても継続相談にならない

今年度のネットワークセミナーは、各町村が抱えているニーズをテーマにするとともに、どの地域で開催されるセミナーにも参加していただけるようご案内しました。その結果、片道を2時間以上の時間をかけて参加される方がいるなど、十勝を5ブロックに分けた地域では解決できない内容が多いと実感する機会にもなりました。町村の規模や高校の有無、社会資源の数、役場と社協の関係性など、取り巻く課題は多岐にわたります。そのような中、共生型地域福祉拠点の設置、重層的支援体制事業と次々と新しい事業が制度化され、違いに戸惑うこともあるかと思います。当センターは就労相談が切り口ではありますが、課題を抱える相談者やその世帯への包括的な支援や、住民等による地域活動が展開できる地域をどのように作っていくのか、幅広い視野の中に就労があると感じる時間でした。